

フタスジサナエ *Trigomphus interruptus* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は60%、
現存数は8であり、絶滅危惧Ⅱ
類に相当する。

【形態】

体色は黒地に黄色の条斑を持
つ小型のサナエトンボである。
胸側の第1側縫線の黒色条が完
全に上縁に達することで、同属
他種と区別できる。

和名は胸の第1・第2側縫線
を2本のスジと見立てたことに
由来する。



♂. 豊田市八草町, 2007年5月11日, 安藤 尚 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平地から丘陵地にかけての
20市町村で記録されている。

【国内の分布】

本州中部から九州南部にかけて分布し、老
岐等の離島でも記録されている。

【世界の分布】

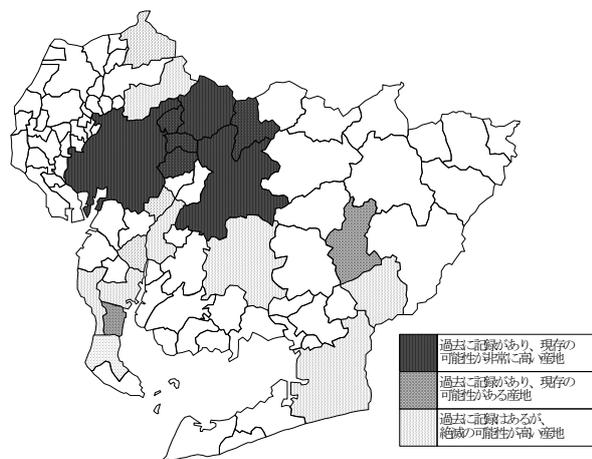
日本特産種である。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに平地から丘陵地にか
けての古い溜池で見られる。未熟成虫は、生
息地を遠く離れることはないようで、発生地周
辺で観察される。幼虫は、浅く泥に潜って生
活している。泥との結び付きが強いようで、
一見同じような池でも、泥が堆積していない
と発見できない。

4月中旬頃から羽化が始まり、成熟成虫は5
月を中心に見られるが、一産地でのピークは
短い。幼虫は野外での観察や飼育結果から、
成虫になるまでに通常2年かかる。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

尾張東部から西三河にかけての丘陵地に現存する。知多半島や東三河にも生息していたが、近年記録が途絶えている。

幼虫は水質汚濁に非常に弱い上、改修による底質環境の改変も絶滅の引き金となる。さらに近年は、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルによる食害の影響も否定できない。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域の水質汚染防止と底質環境の保全
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の草地・林地の確保
- 3) 幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

本種は西日本を主たる分布域とし、愛知県は分布のほぼ東限にあたる。

(吉田雅澄)